2021 年 4 月 1 日

INC 日本語学院自己点検・評価（2020 年度）

INC 日本語学院
理事長　岩田楊子
校長　野松敏雄

以下の通り、2020 年度の INC 日本語学院自己点検・評価を実施したので、これを公表する。

1．　教育の理念・目標

・学校の理念・目標や育成する人材像が明確になっているか　(Ⓐ・B・C)
・その内容が社会的ニーズに適合しているか　(A・Ⓑ・C)

評価・改善策
・本学学則が謳う、日本語教育を通じて日本の文化や社会の理解を深め、日本社会との共生、広くグローバル化の進展に貢献できる人材の育成する、という教育理念・目標は、コロナ禍の中で適切なものと評価している。
・学生は進学して高度な知識を身につけるだけでなく、特定技能などの在留資格により即戦力としての活躍が求められてきている。その社会変化に注意しつつ学生の指導方針を改善していく必要がある。

2．　学校運営

・学校の運営体制が日本語学校の告示基準に適合しているか　(Ⓐ・B・C)
・学校に理念・目標に沿った運営方針や事業計画が策定されている　(Ⓐ・B・C)
・組織運営や人事・財務に関する意思決定システムが整備されているか　(A・Ⓑ・C)

評価・改善策
・告示基準の順守しつつ、学則の理念・目標に沿った事業計画を策定し、実施した。
・学校運営、教育事業、人事・財務について、システム的に適切に意思決定した。
・コロナ禍が継続することを想定して、今後は学校運営や授業実施（変更含む）について迅速に意思決定できる体制を整備する必要がある。

3．　教育活動

・教育理念・目標に沿った教育課程が適切に編成されているか　(A・Ⓑ・C)
・成績評価・進級・修了の判定基準は明確か　(Ⓐ・B・C)
・教員の指導力向上の取り組みが適切に実施されているか　(A・Ⓑ・C)
・教育課程改善の取り組みが適切に実施されているか　(Ⓐ・B・C)

評価・改善策

・本学の教育理念・目標に沿った教育課程を編成し、コロナ禍の中でも初期の目標以上の学修成果・進学実績を上げた。

・本学学則に、成績評価・進級・修了の判定基準が明記され、それに基づいて適切に実施した。

・教員の教育力向上に向けて、学外の研修会に積極的に参加し、学内でも相互点検を行った。

・今年度は、新型コロナウイルス蔓延の社会情勢により、休講およびオンライン授業に実施となった。学生も教員も不慣れな状況により、オンライン授業は対面ほど効果がなかった。例年より学修期間が短くなったが、長期休暇中に補った。

・今後は、今年同様の事態を想定して、非対面での授業や学修機会の提供についてより質の高いものにしていく必要がある。

4．　学修成果

・生徒の日本語能力の向上が適切に図られているか　(A・Ⓑ・C)

・生徒の進路を適切に指導しているか　(A・Ⓑ・C)

評価・改善策

・実力の不足する学生には目標を下げて学修継続の動機を維持させるなどクラスや学生のレベルに合わせた学修指導を行ったが、休講やオンライン授業、日本語能力検定の中止などの影響で到達レベルが下がった。

・例年にない状況下での進路指導であったが、大学や専門学校側での柔軟な対応及び本学の迅速な動き出しによって昨年度よりも進路決定が円滑に実施できた。

・合格後、経済的理由で入学辞退するケースが発生した。また、本国からの送金が困難な学生も多く、今後は経済的な理由で進学が困難な学生に対しては、新たな特定技能に進むという選択肢を含めた指導体制の検討が必要である。

・多様な日本語検定に向けて指導をするとともに、効果的・多様な日本語学修のツールを開発する必要がある。

5．　生徒支援

・生徒の学修・進路・生活に対する指導体制が整備されているか　(A・Ⓑ・C)

・防災・防犯体制が整備されているか　(Ⓐ・B・C)

評価・改善策

・自転車事故が多いので、特に登下校の自転車のルールの徹底のため、適宜、警察官による特別指導や学内での指導を行った。

・法令に基づき、適切に防犯設備を整備している。

6.　　教育環境

・学校の施設・設備が適切に整備されているか　(Ⓐ・B・C)

・教材開発が適切に実施されているか　(A・Ⓑ・C)

評価・改善策

・学校の教育施設や設備は学生に要求にあったレベルに整備している。

・オンライン授業を実施したが、オンライン授業に相応しい教材の開発が十分ではなかった。今後は、非対面授業のノウハウを蓄積し、学生が授業以外（対面・オンライン）で自学自習ができるような教材の開発と体制を整備する必要がある。

7.　　入学者の募集

・生徒募集の体制は適切に整備されているか　(Ⓐ・B・C)

・入学者の募集に際して、学校情報が適切に提供されているか　(Ⓐ・B・C)

・入学者の選抜方法は適切か　(Ⓐ・B・C)

・入学者の確保は適切に実現できているか　(Ⓐ・B・C)

・収容定員は適切に管理されているか

評価・改善策

・出願条件・学費条件等を募集要項にまとめ、正確な情報提供を行っている。

・書類審査・面接を行い、日本語能力や経費支弁能力等多様な観点から適切に学生を選抜している。

・送り出し機関と提携し、日本語学校に入学するための出願条件を満たしている学生に限定して選抜を行っている。

8.　　財務

・財務基盤は安定しているか　(Ⓐ・B・C)

・予算計画・事業計画は適切に策定されているか　(Ⓐ・B・C)

・決算報告・事業報告は適切に実施・公表されているか　(Ⓐ・B・C)

評価・改善策

・毎年 4 月、10 月に入学する学生を適切に一定の学生数を受け入れている。

・株式会社として設立され、資本構成は適切に管理している。

・事業計画及び予算案を適切に策定し、適切に監査・公表している。

9.　　法令順守

・出入国管理法・難民認定法例および各種関係法令を遵守しているか　(Ⓐ・B・C)

・個人情報保護は適切に実施されているか　(Ⓐ・B・C)

・自己点検・評価は適切に実施・公開しているか　(A・Ⓑ・C)

評価・改善策
・関連法規等（出入国管理法、難民認定法等）を順守して、適切に学校運営を行った。 ・学生の成績・出席・進路に関する個人情報は適切に管理している。 ・自己点検・評価は 2019 年度より実施している。 ・自己点検・評価項目を整理し、次年度以降評価項目自体の改善を行う必要がある。

10. 地域貢献・社会貢献

・日本語教育機関として、その資源・施設を利用した地域貢献・社会貢献をしているか (A・Ⓑ・C)

・生徒の地域ボランティア活動支援を行っているか (A・Ⓑ・C)

評価・改善策
・コロナ禍の中とはいえ、地域との交流を含め社会貢献は、日本語教育機関としてその教育資源や施設を利活用した地域貢献は十分ではない。 ・学生がアルバイト先などで地域ボランティアに参加することがあったが、学校としてシステム的にボランティアなど地域貢献は十分ではなかった。 ・今後は、地域貢献・社会貢献及び地域ボランティア活動を充実する必要がある。

・・・